



# たより

平成20年4月18日  
掬水まちづくり協議会  
NO. 18

## J A 松阪本店にて 4月13日(日)午後1時30分より 20年度 第3回掬水まちづくり協議会総会開催 協議会活動の方針

- その1、昨年度やってきた協議会の行事を充実・推進する
- その2、少子高齢者問題、防災問題、環境問題に取り組む
- その3、地域の皆さんの意識調査を実施し、真の地域課題に取り組む

\* 総会の様子は、松阪市ホームページ「まちづくり&地域マネジメント」に入ってからみることができます。

この紙面では、総会の全容はお伝えできません。今回は会長のあいさつの中での協議会方針、それに総会後の講演会の内容を中心にお伝えします。総会の議事審議等は、次回のたよりで詳しくお伝えいたしますのでご了承ください。

### 第三回 掬水まちづくり協議会総会を開催しました。

今回の掬水まちづくり協議会は、一期二年を終え、第三回の総会となりました。今年も参加者については自治会や幼小PTA、中学校PTAのご協力を頂き、約三百名の参加者の中、盛大に定刻の一時三十分開催しました。ありがとうございました。

また昨年は総合同会を市民センター所長にお願いをしていましたが、今年は、地区住民で少しでも運営するという協議会の趣旨を生かし豊原町の西田幸恵さんをお願いをしました。

総会では、まず会長より20年度の協議会方針があいさつの中で発表されました。

これからの協議会は協議会としての真価が問われるところであり「協議会を作ったよかったです」

と言っていただけのように取り組みたい。特に急増する高齢者と差し迫る地震防災への問題を重点として、次の三つを中心に取り組むというものであります。

その1、昨年度やってきた協議会の行事を充実・推進します。

「みんなが元気で、仲良く楽しいまちづくり」の協議会テーマがあるように、まずあいさつ運動を中

自治会	参加人数	自治会	参加人数
山添町	23	豊原町	71
安楽町	8	櫛田町	47
山下町	6	清水町	13
伊賀町	25	菅生町	5
みどり苑	16	合計	214

心としたいろいろな行事を推し進め、助け合えるまちづくりを進めます。

その2、少子高齢者問題、防災問題、環境問題への取組を重視します。

その3、地域の皆さんの意識調査を実施し、真の地域の課題に取り組みます。

総会は予定終了時刻を越え三十分まで熱心に協議をしてい

ただきました。後半の講演会については、紙面に掲載します。

### 自治連合会長 就任のあいさつ

清水町 北岡 藤

このたび、櫛田地区連合会長を仰せつかりました清水町の北岡でございます。

初めての経験でございますので、少々不安な気持ちに襲われています。

しかし、前任者又は諸先輩の方々のご指導、アドバイスを受けながら櫛田地区発展の為に、努力してまいりたいと思えます。

さて、今日の社会を取り巻く環境は厳しく、高齢化の進行、農業の後継者不足また内外的経済環境の変化などあげれば、きりがありません。今年度まちづくり協議会の総会において、いろいろ活動方針が提案されました。

又公民館に於いてもいろいろ行事が提案されており、この提案行事を地区のみなさんにご理解いただき、皆が参加して、皆が楽しんで実行していくことが櫛田地区の発展と、まちづくりの

第一歩ではないかと思われま。今後とも、櫛田地区の皆さんと共に、力をあわせて櫛田地区発展のために、最善の努力を惜しまない覚悟でおりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

### シリーズ あいさつについて

思いつく

あいさつとは

掬水小六年生

伊賀町 権藤 拓実

ぼくは、五年生のときにあいさつ運動をしました。そのとき、ぼくが思ったのは、あいさつをする人は多いけど、下を向いていたり、声が小さかったりしてあいさつをしているかが分かりにくい人がいます。その人達は、もったいないと思いました。大きな声で言ったら気持ちがいいし、相手に伝わらなかつたら、している意味がないと思います。ぼくが思うあいさつとは、大きな声ではっきりと、相手の顔を見てすることだと思います。そして少しずつでもいいからやっていたほうがいいと思います。みんながはずかしがらずに、あいさつをできるといいなと思います。

(裏に続きます)

総会後の講演会  
「地震のつらさ」  
あなたはどうしますか

講師 NPO法人

みえ防災市民会議議長

山本康史

講演会は、三時二十分より開催されました。会場では小中PTAのご協力によりたくさんの方に聞いて

講演会参加人数	
幼小PTA	44
中PTA	33
合計	77

ていただいたこうと、できるだけ詳しく掲載しました。今後の参考にしてください。

・日本は地震大国

日本の領土（領海も含めて）は地球全体の面積の0.01%という割合ですが、日本の地震発生の割合は、世界全体の10%にもなるそうです。このことから日本が地震大国といわれ、地震発生率がいかに高いか、よく分かります。

ですから私たちは一生のうち一度は、大きな地震に遭うことを覚悟しなければならぬとい

のことです。

・東南海地震はプレート境界型でゆれが長い

地震には「プレート境界型」のもの、「直下型」のものとの二通りがあり、地震の揺れが一分ぐらい続くのは「プレート境界型」で、巨大地震になる確率が高いそうです。今、心配されている東南海地震はこれに当たるそうです。

またそれは震度六以上で、立つても椅子に座っても居られない揺れを伴い、これからの三十年間に起こる確率は六十%の高率だそうです。



・家屋の倒壊を避けるために

昭和五十六年の耐震基準以前に立てられた家屋は、多分大きな地震が来たら耐えられないことなのです。それ以降のもので、二十年くらい経てば白アリに土台をやられていて可能性が高くなるので、倒壊の危険性は非常に高くなるので、白アリ対策を急ぎましょう。

・ライフラインへの影響は大

東南海地震のような大きい地震が一度起これば、広範囲に影響を受け、中部電力からの電気の供給などは停止し、またガソリンの供給も止まるようです。

そのような生活を今のうちに想定して準備しておくことが大切であるということです。また一旦、火が出れば、小さいうちに消すことが大切です。大きくなれば、消防車は道路の状況から通行困難で、我々の小さい集落まで

は来れなく、まず消せないということです。住民のバケツリレーで、可能な限り初期消火をするしかないということです。皆で行うバケツリレーで大切なことは、横一列に並ばず、交互に向かい合って渡し合いをします。水はバケツの三分目までにしないと、水の多くはこぼれてしまいます。

・死亡の九割は建物の倒壊による

圧死

木造の二階建てでは、一階はつぶれる危険が大きく、大変危険です。そのため寝室は二階にすること。そして、寝ている周りにタンスは置かないように。倒れて大変危険です。置く場合には、できるだけ低くなるように分けて置くようにすること。家具等の「つつかえ棒」はあまり効果がないようです。また補

強の鍵型の止め金もねじ釘を五センチ位の長いものを使用しないと抜ける可能性があります。このことです。

家屋が倒壊したとき、中はホコリで声を出すことはできないようです。笛などを首にぶら下げるなど就寝するときも用心が必要ですよ。

また、倒壊した建物の下の家族の救出はなかなか困難。もし火災となればミスミス家族の悲惨な状況を目の前で見るようになります。

少しでもそれを避けるために、電気鋸（チェーンソー）や鉄の棒（ボール）を町内などで用意しておくといふそうです。結構役に立つようです。

・行事と併せて炊き出し練習

まちづくり協議会でやっている行事、例えばクリーン作戦などで併せてやっている炊き出しは大変大切だそうです。各自自治会でも行事と併せて実施していただくといふようです。

知って得する昔の話

シリーズ 一 榑田村の歴史

広報担当

伊賀町 三宅忠行

元は、この地方を竹田と言っていました。榑田という名の由来は倭姫命（ヤマトヒメノミコト）が、この地方を通られた時、榑を川に落とされたので榑田を名乗るようになったと伝えられています。今から、四百十九年前までは、清水に参官道が通っていました。蒲生氏郷が松阪へ築城（千五百八十九年）後は三渡より松阪市内を通り豊原方面の伊勢街道が栄えていました。その後、伊勢参官街道が外宮―江戸橋間に開通、さらに昭和二年に近畿日本鉄道が開通、それに輪をかけて、ように国道二十三号線が通り、伊勢街道はさっぱり賑わいを潜めてしまいました。昭和二十八年には、町村合併法の公布があり合併を協議されたが実現に至らず、その後合併勧告により結局、昭和三十三年十月一日松阪市に合併。元の榑田村は清水、菅生、上七見、榑田、豊原の五ヶ村となり、明治四十一年隣村の神山村が廃村、山添、安楽、山下の三ヶ字が榑田村に編入され、その後、昭和三十三年に上七見が朝見に合併、七ヶ字になりました。その後、豊原町内の伊賀町、みどり苑が独立し、現在の九ヶ字となり、九つの自治会となりました。次号は、清水の参官街道の名所と旧跡を紹介します。